当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。
Copyrighted materials of the authors.

共同研究プロジェクト「ダイクシス表現の多様性に関する研究」平成 22 年度第１回研究会

日時　2010 年 5 月 15 日（土）　14:00ー18:00
場所　東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階セミナー室（301 室）（東京都府中市朝日町 3-11-1）
報告者　西村義樹（AA 研共同研究員，東京大学）
報告タイトル「ダイクシスと主観性」
報告概要　主として Lyons (1977) Semantics を参照しながら今後の議論の前提になりうるダイクシスの定義を紹介し、そのように定義されたダイクシスと Langacker の認知文法における主観性の概念との関連性を検討した後に、ダイクティックなカテゴリーであるテンスにおける話し手が主観的に捉えられていることを確認し、McTaggart の時間論などを参考にしつつその哲学的な意味合いに触れ、さらに、日本語のタのいわゆるムード的な用法のいくつかについて、(1) テンス的な機能を担っていると言える用法と密接に関係していること、話し手が主観的に捉えられていること、等を主張し、(2) 英語のテンスの用法との興味深い共通性を指摘する予定であった。実際には、ダイクシスの定義と主観性概念をめぐって活発かつ有意義な議論が長時間にわたって行われたために、本論になるはずであった部分にはあまり立ち入ることができなかった。（西村義樹）

　報告者の西村氏は、１０分ほどの休憩以外はずっと立ちっぱなしで、報告をしつつ参加者の質問に手際よく答えてくださったが、同氏の概要にあるように、時間の制約のため、本論の部分について十分な時間をかけて議論することができなかったのは残念であった。とはいえ、第１回研究会にふさわしく、ダイクシスの多様性と多面性を参加者全員が再確認し、今後２年間の共同研究プロジェクトをおこなっていく上で、極めて有意義な報告であったと言える。（林　徹）